

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2672200066
法人名	社会福祉法人みねやま福祉会
事業所名	グループホームもみじ
所在地	〒627-0021 京都府京丹後市峰山町吉原73 (電話) 0772-69-5300

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階
訪問調査日	平成19年10月5日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.75 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(10万 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 1200円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	84 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人丹後中央病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北近畿丹後鉄道の峰山駅から車で5分くらい、峰山小学校の前という抜群の立地にある。木造の和風住宅は地域に溶け込んでいる。内部も適度に視線をさえぎる構造になっており、それらが相俟ってゆったりと落ち着ける雰囲気である。利用者の毎日のお出かけのせいで地域住民にも顔見知りとなり、野菜のおすそ分けやいろいろの情報も入ってくる。男性2人を含め、年代や経験はさまざまな職員がいるが、チームワークはよく、前向きで明るく元気の職員である。職員にも利用者にも料理の得意な人がおり、食事やおやつは充実している。法人の新事業開設などの影響でこの4月に職員異動が多くあったが、新しい管理者は開設以来の職員であり、職員人数も2人増えているため、家族は安心している。管理者は利用者にも暖かい気持ちをもっており、グループホームの運営に熱意がある、こうした支援により、利用者同士の会話が弾み、自然体で生き生きとした生活を送っている。利用者職員との共同生活が実現しているのである。課題は日本の医療の課題でもあるが、医療連携に苦慮していることである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で指摘された点として、アセスメントの充実、職員研修の充実、対地域への対応、家族への写真やおたより等の点については、真摯に取り組まれ、改善されている。なによりも、利用者を個人として尊重し、安らぎのある暮らしが実現している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価に向けて、全職員が自己評価に取り組み、会議のなかで話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、区長、隣組組長、京丹後市保健福祉部高齢者福祉課課長等がメンバーとなり、会議が開催され、議事録も残されている。それぞれの立場から積極的な意見が出され、それに対してきちっと対応している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情や意見としては運営推進会議のなかで話された内容がある。職員の勤務時間が長いことを心配していることについては対応している。また重度化したときには特養に入れるようなシステムになっていれば良いという意見に対しては、予め申し込むことを薦めている。このグループホームや利用者が地域に受け入れられているのでうれしいという意見もでている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には利用者一人ひとりが加入しており、行事の参加をしている。毎日のように外出しており、顔見知りになってもらっている。畑の作業をしていると、通りかかった人との交流ができる。近所の人が採れた野菜のおすそ分けをしてくれる。地域のスポーツ大会等の行事にはお誘いがあり、参加している。中学生の体験学習を受け入れており、また小学校の運動会は見に行っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「より質の高い福祉サービスの提供、地域の人びとのこころ豊かで安心・安全な暮らしへの貢献、誇りと夢をもち、福祉の仕事に邁進できるよう職員の幸福追求」の3点が掲げられており、パンフレットに明記されている。職員には「管理より生活を」が叩き込まれている。グループホームは「その人らしく生き生きと……」とパンフレットに書かれているが、これが理念とは認識されていない。契約書、重要事項説明書等にも理念の明記はない。	○	グループホーム一般のあり方および法人の理念を踏まえて、グループホームもみじの独自の理念を、職員の話合いにより、策定し、契約書や重要事項説明書に明記し、利用者や家族に説明するとともに、パンフレット等にも明記し、地域の人たちへの啓発を行うことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も法人の掲げる「管理より生活を」を中心に日常の業務をおこなっている。職員の押し付けにならぬような暮らしができるよう、また利用者が自分が役に立っているという思いのなかで自信をもてるよう、そして傍にいてだけで利用者は安心することを認識して、毎日の生活をつくっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には利用者一人ひとりが加入しており、行事の参加をしている。毎日のように外出しており、顔見知りになってもらっている。畑の作業をしていると、通りかかった人との交流ができる。近所の人が採れた野菜のおすそ分けをしてくれる。地域のスポーツ大会等の行事にはお誘いがあり、参加している。中学生の体験学習を受け入れており、また小学校の運動会は見に行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって自己評価票は全職員が参加して話合った。前回の評価で指摘された点のうち、アセスメントの充実、職員研修、とくに認知症ケアの研修の推進については改善されている。独自の理念の策定、家族への個別のたより等は検討中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、隣組組長、福祉委員、京丹後市保健福祉部高齢者福祉課課長をメンバーとして、運営推進会議が立ち上げられているが、昨年12月と今年8月の2回しか会議は開催されていない。要綱は作成されておらず、家族は固定メンバーではない。会議にはグループホームから内容の報告がなされ、活発な意見交換が行われており、議事録も詳細に残されている。意見や要望への対応も十分なされている。	○	要綱を作成し、メンバーには委嘱状を出す等して、責任をもって参加してもらうとともに、2カ月に1回開催することが求められる。また利用者もメンバーに加えることが望まれる。

京都府:グループホームもみじ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の受給者に関しては、生活保護課と連携をとっているが、高齢福祉課とは運営推進会議での交流のみである。	○	認知症の専門家として、地域でのニーズの掘り起こしおよびそれに対するさまざまな対応策を、市町村に提案し、介護相談、認知症の啓発理解等の取り組みを共催事業としておこなう等、地域における社会貢献を果たすことが望まれる。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行される『もみじだより』は写真が豊富で読みやすく楽しいものである。これを請求書と預かり金報告とともに家族に発送している。家族が面会にきたときに口頭で状況を報告するように努力している。バーベキューや忘年会には家族にも招待して参加してもらっている。	○	『もみじだより』だけでなく、職員の手書きで1行でも、その利用者の様子を伝えるようなことが望まれる。また面会時に家族との信頼関係をつくるのが大事であり、どんなことでも話してもらえると家族は安心するので、率直な交流をすることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見としてはほとんど例がない。運営推進会議等で、「いつまでもグループホームにいられないのは不安である。システムとして特養に移動できるようになっていけばよい」「宿直の職員は勤務のあと早出となり、長時間になるが大丈夫か」等の意見がだされており、きちっと対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としては異動を極力抑える方向をもっているが、今年度はもうひとつのグループホームの管理者が退職したこと、小規模多機能型事業所を立ち上げたこと、職員数を増やしたこと等のために、職員異動が多く発生した。しかし、新管理者は開設以来の職員であり、家族も安心している。職場のなかの風通しをよくし、退職をふせぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度ごとの研修計画が作成され、法人内研修、外部研修ともに職員が交代で受講している。認知症ケア、急変時対応、尊厳あるケア、個別ケア、介護予防、学習療法等のテーマで受講している。レポートは作成され、また会議において伝達研修もおこなっている。また人事考課制度があり、半年に1回面接し、職員一人ひとりの課題を、管理者とともに話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流はおこなわれているが、他の法人のグループホームとの交流はない。	○	同じ京丹後市内にある他の法人のグループホーム管理者との話し合いにより、京丹後市内でグループホームの交流会を立ち上げ、今後の交流や勉強会を予定しているので、その実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いままで利用者は家族と共に見学されたことはあるが、試し利用をした利用者はいない。しかし、希望があれば対応する。利用開始後には、なるべく早くなじんでもらうために、何度も家族のところに同行したりして工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの人生における体験からくるものにたいして尊敬の念をもっており、野菜の育て方、料理の味付け等、教えられることが多い。外出を嫌う利用者の生家を訪問したときは、喜んで家のぐるりを回ったり、近所の人と話したりされる様子を見て、感動した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると、医師の診断書、介護認定、主治医意見書等々の資料を収集し、面接したうえでその記録と状態確認書(ADLが中心)が残されている。このなかで生活歴も書かれている。介護計画作成にあたっては、利用者や家族から希望や意向を聞いている。	○	利用者や家族の希望や意向は、「このまま元気で暮らしたい」等と、大雑把なことが多いので、介護計画に落とし込むには、できるだけ詳細な生活歴の収集が欠かせない。毎日の暮らしのなかで聞いたことを記録に残していくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントをおこない、ケアマネジャーが介護計画を作成している。作成された介護計画は会議のなかで確認し、全職員が認識するようにしている。また、ケース記録にも添付して、確認を促している。	○	介護計画の作成にあたっては、利用者本人や家族からの具体的な聞き取りにより、どんな暮らしをしたいのかを把握するとともに、全職員が意見を出し合うなかで検討することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しにあたっては、ケース記録を参考に、ケース会議で検討し、アセスメントをおこない、新たに作成している。ケアプランの評価はない。	○	介護計画の見直しにあたっては、ケース会議等で現在の介護計画の評価が行われ、そのうえでアセスメントの結果、新しい介護計画を作成することが求められる。介護計画の評価の根拠は毎日のケース記録であるが、職員の努力によって非常に詳細に書かれているが、ケアプランに添った内容は少ないので、ケース記録の書き方を検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショート利用も配食も地域のニーズがない。ショート利用は登録していない。医院への受診は同行している。理美容は2カ月に1回、訪問理美容車がまわってくるので、利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族にお願いしているが、家族が同行できないときは職員が同行している。往診はない。歯科医には往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は長年お世話をしてきた利用者にたいして、最後までお世話をしたという思いがあるが、医師や看護師の対応が得られない現状では、ターミナルケアの方針は決めかねている。	○	ターミナルを迎えたとき、グループホームができること、できないことがあり、それを明確にして家族との話し合いをし、意向を確認するとともに、職員同士の十分な話し合いと、医師や看護師の連携体制を整えることが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人として個人情報保護規定を策定し、職員からは誓約書をとっている。ケース記録についても気をつけている。『もみじだより』等に写真を掲載することについては、家族から「写真掲載同意書」をとっている。トイレ誘導の声かけは十分注意している。居室は内側から鍵がかかるようになっており、自ら施錠する利用者もいる。居室内にポータブルトイレが置かれているが、日中はきれいな布製のカバーをかける等の配慮が期待される。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は8時ごろ、夕食は6時ごろ、等のおおよその日課は決められているが、起床も就寝も利用者の自由である。入浴や外出も希望にそっており、職員の押し付けはない。		

京都府:グループホームもみじ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に毎日午後に食材の買い物に出かけている。高齢者の食べ慣れた、季節感に溢れた、野菜が豊富な献立になっている。共用食器は陶器製、お箸、お湯のみは利用者の持ち込みである。お誕生会のケーキも手作りである。時にはみんなで、あるいは小グループで外食に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日準備しており、希望があれば毎日入浴ができる。順番を気にする人がいるので、公平になるように、業務日誌に順番を書いている。時間帯は夕方遅くが多いが、夕食後も希望があれば対応している。マンツーマンの介助で、同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、洗濯物畳み、台所の仕事、水遣り、カーテン明け、カレンダーめくり、畑の草むしり、植木鉢で花を育てる等の役割が果たされている。楽しみとしては、絵を描く、歌を歌う、縫い物をする等々が日常的に楽しまれている。学習療法に取り組んでいる人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの方針として、外出に力を入れており、雨でも冬でも、ほぼ毎日買い物に出かけ、そのついでに公園の散歩や喫茶店に立ち寄り等している。遠出の外出は花見や木津温泉の足湯等に取り組んでいる。思い出の場所訪問としては生家、墓参り、行商の仕事で始終行っていた豊岡等にかけて、喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームに扉はなく、玄関ドアは日中は施錠されていない。また勝手口や裏口等の出入り口も施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルが策定されており、避難訓練もほぼ2カ月に1回くらいの頻度でおこなわれている。地域住民に緊急時の協力は依頼しているが、日中は仕事で助けてもらえる働き手は少ない状況であり、むしろ職員が地域住民の支援をすることも考慮している。備蓄の用意はない。	○	広域避難場所は峰山高校であるが、当グループホームが近隣住民の避難場所になることも考慮して、備蓄や防災グッズの準備が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量は業務日誌に記録されているが、水分摂取量は記録がない。献立の記録はあるが、カロリー値の記録はない。	○	高齢者に水分は必要不可欠なものであり、利用者一人ひとりのおおよその水分摂取量を記録すること、また1カ月に1回くらいは献立について栄養士のチェックを受け、カロリー値と栄養バランスについて記録することが求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋の木造住宅は地域の風景に違和感なく溶け込んでいる。内部の設計も非常に優れたものであり、適度に視線をさえぎる構造になっている。居間の一角の畳コーナーには掘りコタツがあり、窓から近所の住民が顔を出す。食堂も3つの食卓により、こじんまりとした家庭的な感じになっている。観葉植物がところどころにおかれ、ほおずきがガラス瓶にさしてある。壁には利用者の描いた絵が貼ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には表札はなく、それぞれ異なる花の額がかけてある。居間をまんなかにして両側に居室があり、どの部屋もバルコニーにでることができ、陽がさしこみ明るい。備え付けの洗面所があり、ベッド、たんす、テレビ、電話、衣装ケース、コタツ、椅子、絨毯、本棚、机等が持ち込まれている。仏壇に妻の写真を飾っている人、書き物をする人、家族の大きな写真を飾っている人等、個性的にレイアウトされている。		